

No.652 (改題612号)  
2024年  
9月25日(水)

# 新社会兵庫



# 週刊 新社会

発行所：新社会党

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 三成工業ビル3F  
TEL. 03(6380)9960 FAX. 03(6380)9963

新社会党兵庫県本部 神戸市中央区中山手通5丁目2-3 ☎078(361)3613 FAX078(361)3614 毎月第2、第4水曜日発行 購読料月400円(1部200円)郵便振替:01120-7-16805

## 斎藤知事は直ちに辞職を

県議会の百条委員会の証人尋問では、頑なにパワハラ疑惑などを否定し続け、公益通報者保護法に違反する内部告発者捜しや処分強行についても、ただひたすら自らの正当性を主張し続ける斎藤元彦兵庫県知事。2人の死者を出し、自らが招いた県政の混乱と停滞の責任から辞職を求められても頑なに拒否の姿勢を貫く対応に、いまや県民の怒りは沸点に達しているかのようだ。9月8日、県民会館で開かれた「斎藤知事の辞職を求める緊急県民集会」には主催者の予想を大きく上回る約600人が参加。デモも行われた。

## 県民の怒り沸点に 緊急県民集会に600人



600人が参加して主会場だけでなく別室も満席で人が溢れた「斎藤知事の辞職を求める緊急県民集会」=9月8日、兵庫県民会館

NHKとメディアを考える会(兵庫)、市民デモHYOGO、路上のラジオ、新聞うずみ火、共同テーブル近畿の5団体の共催で開かれた集会是、会場の「げんみんホール」では立ち見や通路に座り込む人々も出て、予備に用意されていた別室も満杯となる盛況ぶり。矢野宏さん(新聞うずみ火)代表)の司会で進められ、メインの佐高信さん(評論家)と西谷文和さん(フリージャーナリスト)の対談に先立ち、百条委員会の委員を務める丸尾まき県議から発言があった。百条委員会の設置に至る自身の取り組みや委員会での検証のポイントなどについて語り、今後、たとえ議会解散になったとしても百条委員会は再設置して告発内容を検証し続けるべきだとの考えを述べた。

今回の一連の問題について主なテーマをとり上げながら話を進め、ときにはユーモアも交えて会場の笑いを誘いながら、しかし、それぞれに鋭いコメントを述べ合った。集会後のデモには約350人が参加。「知事は辞職を」と書いたプラカードなどを掲げ、「斎藤アカン、維新もアカン」などのコールをあげながら三宮のマルイ神戸の前までデモ行進を行った。



集会で対談した佐高信、西谷文和両氏を先頭にしてデモ行進に出発=9月8日、県庁南

## 明石川流域 PFAS汚染

### 検査の半数が「指標値」超え 明石の市民団体が血液検査結果報告

明石川が発がん性の疑われるPFAS(有機フッ素化合物)に基準値を超えて汚染されている問題で、市民団体「明石川流域のPFAS汚染を考える会」は9月8日、今年7月に周辺住民33人(15歳~83歳)を対象に行ったPFAS血中濃度検査の結果報告会を開き(写真)、検査対象の約半数が健康に影響の恐れがあると思われる米国の指標値を超えたと発表した。

検査対象は、明石川を水源の一部として利用する市内2つの配水場地域に10年以上連続して在住する市民。検査に参加した33人の汚染レベルは、特にPFPOA(1方種類以上あるとされるPFASの内の1つ)に関して極めて高く、そのレベルは、高濃度のPFASが検出され

たダイキン大阪拠点周辺の住民約1千人を対象とした血液検査で最も高いPFPOA濃度となった摂津市や東淀川区のレベルに匹敵、あるいは超えている。PFPOAはWHOの専門組織(IARC)が「発がん性がある」と認めている。検査人数が少なく統計的に明確ではないが、血中濃度は、明石川の河川を原水とする率が最も高い東部配水場を利用する地域に高く、水道水を飲料水として利用している人に高く、浄水器の利用で低減されていたことから、主な汚染源は水道水と推定されるとした。(S)



「考える会」は、昨年、丸尾まき県会議員と小泉昭夫京都大学名誉教授らが、明石市民の血液検査や汚染源調査のための水質調査などに取り組み、

## 水脈

秋分の日 (秋の彼岸の中目)も過ぎたのに、危険な暑さは残り、熱中症の心配もある▼新聞では大きなスペースが割かれておせち料理の広告が掲載されている。3万円から5万円を超えている▼おせち料理の語源は、昔、宮中の季節の節目に催された宴会(節会)の料理である。後に民間に普及し、もっぱら正月料理にしばられるようになった。正月料理であるから、さまざま季節感や縁起が盛り込まれている▼おせちが呼び起こす情感は、ある朝、突如訪れるものではない。秋から冬へと積み重ねられた労働や生活がもたらすものである。汗や涙が連なるものである。そういう大切な情感を踏みこみ、炎暑への警戒と正月の夢を運ぶおせち料理を同時に対処せよというの、まごうかたなき暴力である▼利潤と競争を無上のものとする資本主義の振る舞いであるから、早期予約にはプレミアがついている。人間らしい情感が資本の論理によって無情に削り取られていく。ぼーっと生きていくとみんな出し殻になってしまう▼自民党総裁選挙の9人の公約などですでにそうである。人間らしい理想も情感もなくなっている▼皆さん、人間らしさは中秋の名月。見ましたか。

## ひょうご(154) 描き歩き



### 梅ヶ枝湯 (高砂市高砂町)

山陽電車高砂駅から南へ徒歩5分に赤いレンガの煙突とまだらに剥げ落ちた黒板塀の屋上屋を重ねたような外観の銭湯が今も残って営業が続けられている。戦時中の1943年創業の「梅ヶ枝湯」で、入り口のある道路側はモルタル造りでその佇まいも昭和のレトロだが、画にした裏側がよりレトロ。アニメ「千と千尋の神隠し」の湯屋が連想されて人気とか。何回となく継ぎ足されたと思しき雑然さが何ともレトロ。この裏手の窯焚き口の傍には燃料の薪となる材木片が積み蓄えられている。

かつてこの風呂屋の裏側をSLが通り、すぐ近くに国鉄高砂駅があった。SLの吐き出す煙で洗濯物が汚れてしまつからと3階部分を建て増したことでこの雑然とした外観となったらしい。この国鉄高砂線は三菱製紙、鐘淵紡績の貨物や旅客輸送の目的で高砂と加古川を結ぶ播州鉄道として1914年に開設されたものが、陸軍造営廠播磨製造所設置等に伴って43年に国鉄高砂線となり、町の発展に貢献したが、40年前に廃線となって線路跡は今、遊歩道となっている。



銭湯の内側に入ると番台があり、下足入れ、脱衣箱も木製で、使えなくなったものも使えないままでここにあり、昭和がそこには残っていた。(嶋谷)

# 全会派、全議員から不信任

## 齋藤知事はそれでも続投か

### 「議会解散」に意味はなし



「齋藤知事問題」で著しい混乱と停滞が起きている兵庫県政

齋藤知事のパワハラ疑惑など7件にわたる疑惑の内部告発文書をめぐり一連の事態に、兵庫県政は前代未聞の異常な状態に陥っている。

この間の百条委員会で、定例議会初日の19日に不信任決議案が全会派、全議員（55人）の賛成で可決された。齋藤知事は即日採決され、可決は事実視される（議員3分の2以上の出席で、出席議員の4分の3以上の賛成で可決）。そうならば、知事は失職か議会解散（10日以内）の選択を迫られるが、これまでのところ、知事は頑なに辞職を拒み、続投の意思を表明し続けている。

ただ、もし議会解散の道を選んだとしても改選後の議会で、3分の2以上が出席し、半数以上が賛成すれば不信任決議は成立し、議会から通知を受けた時点で知事は失職する。改選議会が齋藤知事を支持する議員が過半数を超えることは考えられず、どんなに「県政を前に進めたい」と固執したところで、待つのはただ失職だけだ。多額の費用も費やす、こうした議会解散なんの大義があるというのか。何を県民に問うというのか。

- インフォメーション
- 第10回東灘憲法カフェ「なくさないで！健康保険証 マイナ保険証の問題点とは」
- ◎9月28日（土）14時～16時◎うららハルス・1階地域交流室◎お話し山田誠一さん（元神戸市職員）と報告（病院現場から）◎参加費300円◎共催：憲法を生かす会・東灘、ろっこつ医療生協
- 講演会「21世紀の今なぜ戦争なのか 西谷文和が見たウクライナ、ガザ、そして日本」
- ◎10月20日（日）14時◎交流会実行委員会
- 長田区文化センター・大会議室◎講演：西谷文和さん◎参加費800円（学生無料）◎主催：憲法を生かす会・西神戸連絡会
- 第27回働く女性の交流会
- ◎10月20日（日）13時30分～16時30分◎ひょうご共済会館◎参加費1000円（資料代）◎講演：「なぜ雇用形態による処遇の格差はつくられたか——ジェンダー視角から見る」禿（かむろ）あや美さん（埼玉大学）と職場交流◎主催：働く女性交流会実行委員会

# 改憲の動きをウォッチング

岸田首相は8月14日、内閣支持率が低迷する中で退陣表明した。自民党の総裁選挙が27日に行われ、新内閣が発足する。2021年10月、首相に就任して3年。歴代政権が否定してきた敵基地攻撃能力（反撃能力）の保有を認め、「専守防衛」の中身を再定義させた。専守防衛の神髄は、自衛隊が攻撃的な兵器を持たない、他国の領土、領空、領海を攻撃できる能力を持たないということであった。安全保障政策の大転換である。

自衛隊が在日米軍の指揮下に入る恐れ

日米両政府は、日米安全保障協議委員会（2プラス2）で日米軍事一体化の加速化を確認した。日米の指揮統制関係について、共同文書は「在日米軍は自衛隊に創設する『統合作戦司令部』の1つの重要なカウンスパートになる」と明記している（24年7月）。

自衛隊は、来年3月に陸海空3自衛隊を一元指揮する「統合作戦司令部」を創設。現在の在日米軍司令部の機能は基地の管理などに限られているが、今後は在日米軍に指揮・作戦立案など部隊運用権限を付与する方針。日米の統合作戦司令部が連携強化を図ることになる。

圧倒的な軍事力と情報収集能力を持つ米軍の判断に引きずられ、日本の指揮権の独立性が損なわれる恐れがある。日米の軍事一体化によって自衛隊が米軍の指揮下に組み込まれる可能性はいよいよ高くなる。

被爆国日本で「拡大抑止」は言語道断

「拡大抑止」に関する初めての閣僚会合は、「2プラス2」に合わせて開催された。核抑止は、日本が核攻撃や核の脅しを受けた場合に、米国の核兵器による報復を行う意思と能力を示すことで敵国を自制させることを目指すもの。

上川外相は会合の冒頭で、「拡大抑止」は日米同盟の中核であり、わが国周辺で核の脅威が高まる中、「層強化していくことが重要だ」と発言。

軍事力強化へ違憲の立法や政策

歴代政権が憲法上、保有が許されないとしてきた「攻撃型空母」保有に向けて、海自の大型護衛艦「いずも」と「かが」の改修を急いでいる。

滑走路の延長や岸壁の増築などで、戦闘機や艦船が利用しやすいように整備・改修する「特定利用空港港湾」は、「戦争する国づくり」の一環である。

自衛隊の陸海空の各部隊を一元的に指揮する「統合作戦司令部」を創設する改定防衛省設置法が成立（5月）。「統合作戦司令部」は自衛隊と米軍の指揮・統制枠組みをそろう、共同対処力を高めることが目的とされる。

岸田首相は、安倍元首相の特定秘密保護法や国家安全保障会議の創設、集団的自衛権の容認などに続き、戦争への道を突っ走ってきた。憲法記念日の朝日社説は「戦争への影を落とす始めている」と警告している。

岸田首相は、総裁就任以来、今年9月までの任期中に改憲を実現すると繰り返し公言してきたが破綻した。

# 健康保険証の廃止を許さず

## マイナ保険証STOP運動を

ただし、「紙」と「カード」に分けて対応しなければならぬから、医療事務負担はとて重いものなる。

さらに大きな被害を受けるのは、各保険組合である。今までは、一度発行すれば転職や結婚などの氏名変更に対応すれば十分だった（自治体は、毎年送付）。それが、①「資格確認書」の送付、②「資格情報のお知らせ」の作成と送付も必要になった。

加入者の最新情報（といっても1か月前のもの）をオンラインで医療機関へ提供するために作られた。これを使いこなすのが難しいようだ。

そのほか「マイナンバーのPDFの写し」ができ、「スマホマイナンバーカード」も構想され、窓口での資格パターンは9種類になる。結局、不便を強い、無駄な投資になる。

また、マイナカードの期限切れ更新問題が生じる。現行の保険証は自分で更新する必要はない。だが、マイナ保険証には有効期限がある。自治体の場合は各個人に郵送しなければなら

ないが、7月の利用率はわずか11%台だ。政府が「廃止になる」と不安を煽ることができず、「廃止ではないこと」を説明すれば、利用率は伸びない。12月になっても、1割、多くて2割程度にしかならないだろう。

「保険証「廃止」の弊害

仮に2割の利用率だと仮定しよう。この場合、医療窓口の混乱はさほど大きくならないかもしれない。大多数が紙の保険証を使うため、現在の状況と大差がないからだ。

なかでもやっかいなのが、②の「資格情報のお知らせ」だ。マイナ保険証で受診時に、なければならぬ。

政府・自民党は「デジタル化」を呪文のごとく言っている。しかし、今進められているマイナ保険証は本来のデジタル化とかけ離れたものだ。真のデジタル化は利用者が便利だと実感しなければ実現しないものだ。

問題が続出するたびに「改善策」を繰り返したために、複雑怪奇なものになっている。利用者にとって不便を強いるだけでなく、巨額の無駄な投資がさらに続くことになる。

大胆にマイナ保険証STOP運動を

自公政権は、軍事費増など「政府が決めたこと」にすれば、国民はそのうち諦めると高をくくっている。

しかし、このマイナ保険証問題は、実生活に強く結びついている。政府がそのまま突き進めば、老いも若きも困惑し、怒るだろう。

今の政権が、人々の生活より大企業の利益追求を最優先していることが浮かび上がる。この事実を分かりやすく説明し、総選挙や参議院選挙で訴え、そのうえでマイナ保険証をSTOPさせる運動を各地で大胆に展開するチャンスが到来している。

佐野修吉（憲法を生かす会、西神戸連絡会事務局長）

# 私の主張

証は発行しませんが、そのかわりに発行する「資格確認証」は現行の保険証とほとんど同じもので、当面5年間は有効です」と、説明せざるをえなくなってきたのだ。

利用率は一割程度

8月のマイナ保険証利用率はまだ発表されていない。

「紙」と「カード」に分けて対応しなければならぬから、医療事務負担はとて重いものなる。

さらに大きな被害を受けるのは、各保険組合である。今までは、一度発行すれば転職や結婚などの氏名変更に対応すれば十分だった（自治体は、毎年送付）。それが、①「資格確認書」の送付、②「資格情報のお知らせ」の作成と送付も必要になった。

企業の健保組合は、企業宛の送付で済むが、自治体の場合は各個人に郵送しなければなら

# 市民の王子公園を守り抜くぞ

## 「防災の日」に

### 王子公園を守る市民集会

#### 「王子公園・市民ミーティング」実行委員会

神戸市が進める王子公園の再整備計画をめぐる、市民不在の同計画の撤回・見直しを求めて21年12月の計画案発表以来、

2年8カ月にわたる運動を続けている「王子公園・市民ミーティング」実行委員会は「防災の日」の9月1日、灘区の動物園ホールで「王子公園といのち・くらしを守る市民集会」を開いた。

85人が参加した集会では、主催者あいさつの中で、王子公園の廃止は市民のニーズを無視した一方的なものであるとしてこの夏、同実行委員会が集約した署名運動の結果が報告された。同実行委員会だけでも7千6百筆を超え、他の市民団体が集めたものを合わせると1万筆を超えることが明らかにされた。

同ホールで「王子公園といのち・くらしを守る市民集会」は、主催者あいさつの中で、王子公園の廃止は市民のニーズを無視した一方的なものであるとしてこの夏、同実行委員会が集約した署名運動の結果が報告された。同実行委員会だけでも7千6百筆を超え、他の市民団体が集めたものを合わせると1万筆を超えることが明らかにされた。

### 王子プールをなくさないで 1万3千筆の署名提出

「王子公園・市民ミーティング」実行委員会は、5月連休後から始めた「王子プールをなくさないで」署名を7683筆集約し、「みんなの王子公園&動物園の会」が集めた分と合わせた1万2729筆を9月3日、神戸市に提出した。



「王子公園・市民ミーティング」実行委員会と「みんなの王子公園&動物園の会」が集めた署名1万2729筆が神戸市に提出された=9月3日

### 日本の武器輸出解禁問題 「憲法カフェ」で考える

#### 憲法を生かす北区の会

憲法を生かす北区の会は9月14日、弁護士の吉江仁子さん(写真)を講師に、「憲法カフェ」を北区文化センターで開いた。今回のテーマは、日本の要がある」と力説した。

武器輸出解禁問題を取り上げ、「日本は、『死の商人』になるのか?」吉江さんはまず、三木内閣時の武器輸出の事実上の全面禁止を謳った「武器輸出三原則」(1976年)が、その後の時代の流れのなかで変質していき経過を振り返り、今年3月26日、日英伊で共同開発する次期戦闘機の第三国への輸出容認を政府が決定するに至った今日の状況を確認。

そのなかで、2011年に当時の野田民主党内閣が「武器輸出三原則の包括的例外」という官房長官談話を発表したことに注目し、後の過程のなかでも、平和国家としての憲法の基本理念に関わることに、のちに「安保3文書」などの問題でも顕著なように、最近の安保問題で憲法論議をしない自民党政治の流れの異常さを指摘し、批判した。



署名活動の報告、行政訴訟提訴の報告・説明、講演、全体討論と盛りだくさんの内容で開かれた市民集会=9月1日、灘区・動物園ホール

# 被災地から問うアスベスト対策 専門家らでシンポジウム

「災害とアスベスト—阪神・淡路30年プロジェクト」が主催



4人のパネリストが被災地でのアスベスト問題について議論した=9月1日、神戸市中央区

シンポジウム「阪神・淡路大震災30年 被災地から問うアスベスト対策」が9月1日、中央区文化センターで開かれた。NPO法人ひょうご労働安全衛生センターの呼びかけで結成された「災害とアスベスト—阪神淡路30年プロジェクト」が主催した。能登半島地震や台風などによる甚大な自然災害が増えつつあるなか、市民やユニオン関係者など80人が、被災地で飛散するアスベストの現状や対策のあり方をめぐりパネリストの議論に学んだ。

中路重晴さん(熊本学園大学教授)は、「阪神・淡路大震災の体験と飛散アスベストによる健康被害の実態把握からその教訓を全国に警鐘していく必要がある」と力説した。

ポランティア活動を支援する村井正清さん(被災地NGO協働センター顧問)は、「能登半島地震発生翌日に現地入りした。被災地の状況と進まない復旧作業の中でボランティアへの事前宣伝によりマスク着用が進んできた」と報告した。

リモートで参加した永倉冬史さん(NPO中皮腫・じん肺・アスベストセンター事務局長)は、6年前の真備町の水害などの調査から「がれき撤去や仮置き場などでの乾燥によるアスベスト粉じ

んの飛散についての情報周知、防じんマスクの着用、分別収集などの徹底を」と力説した。

松田毅さん(神戸大学名誉教授)は、アスベストの暴露を回避するための「アスベスト・リスク・コミュニケーション」の課題を解説した。

同プロジェクトは来年1月12日、「阪神・淡路大震災から30年—アスベスト対策シンポジウム」の開催を予定。当面は被災地でポランティア活動に従事した人たちの健康調査アンケートに取り組んでいる。(菊地)

さらに、その後の過程のなかでも、平和国家としての憲法の基本理念に関わることに、のちに「安保3文書」などの問題でも顕著なように、最近の安保問題で憲法論議をしない自民党政治の流れの異常さを指摘し、批判した。

### 地域ユニオン あちこちあれこれ

ある歯科医院の解雇問題の相談を受け、交渉することになった。相談者のAさんは26歳女性。勤務6年、受付と助手の仕事をしている。

### 解雇規制の緩和の行き先

9月2日、勤務後に歯科医に呼ばれた。「今、人件費ちょっと減らさなアカンねん。Aさんに辞めてもらう」という寝耳に水の話にAさんは驚いた。歯科医からパワハラを受けていたAさんは、退職することになった。Aさんは、退職することになった。Aさんは、退職することになった。

ユニオンは、問題をひとつずつ解決していくことができず、その機能は、未来の人たちの生きる権利を守ることに成り下がっている。明日の交渉はAさんが人権を取り戻すためにがんばろう。

木村文貴子(神戸ワーカーズユニオン書記長)

## おんなの目

「困難な問題を抱える女性支援法（以下、女性支援法）」が今年4月に施行されたが、施工前、法律名さえ知らない自治体職員、議員が多くなっている。

ただ活動をしている私たちの耳にはよく入っている。「女性支援法」だが、そうでない人たちはどのような法律ができたことさえ知らないのではないだろうか。どこに行ったらいいのか、どういう相談ができるのか、たぶん多くの女性には知らないだろう。法律ができて「絵に描いた餅」では意味がない。

私の友人は、つれあいの束縛、暴言を結婚後から受け続けていた。「？」と思ったのが20年ほど前。参加すると聞いていた同期会を直前にキャンセルした時だった。理由を聞くために電話をすると、いつもは元気な声が続けざまに出てくるのに、なぜか言葉が出てこない。「ダンナさん、そばにいる？」と聞くと、「うん」と言葉が返っていない。彼女は言う。「親にこれ以上心配かけたくなくて、（いじめ）には嫌な思い

をせず、成長してほしかった」「昔の人はみんな我慢してたんだよ。」

「あなただけ悪いわけではない。そういう世の中がおかしい」と彼女と話をしたいと思う。

彼女が「助けて」と言うことができる場所はどこだったんだろう。「あなただけ悪いわけではない。そういう世の中がおかしい」と彼女と話をしたいと思う。

活動の大先輩からこんな話を聞いた。組合の活動をする時、「女だてらに会長をして」「もっと真面目な活動をするな」と

（その先輩は多くの人が参加できるように楽しい活動も考えていた）と組合運動の仲間の男性に言われた。

この男性のつれあいは、はるばる主婦なかなあと思ふ。私たちの周りにもいる男性陣が、みんなこんな考えだとは思わないが、こういう考え方がある限り、この世の中は変わらないだろう。

私が活動を始めた40年以上前、「外では社会党、帰る途中は民社党、家では自民党」と教えてもらったことがある。大先輩の女性に「女だてらに」と言った男性は、その頃の男性だったんだろうと思う。

女性も、男性も、と区別されない社会にならないうに「女性支援法」が本心に実効性のあるものにならない。

（松永浩美）

## 「女性支援法」が施行されて



## 『Z世代のアメリカ』

三牧聖子著／NHK出版新書／930円＋税

アメリカは今、政治、外交、社会など様々な面で転換期にある。著者は、人口の2割を占めるZ世代（1997年～2012年生まれの）が、今の政治や社会をどう見ているのかを考察している。アメリカのZ世代は、テロとの戦いや金融危機など、綻ぶ自国を見ながら育った世代であり、社会運動の主体としても注目を集めている。

著者はZ世代に注目する最大の理由を、「歴史的にアメリカの政治外交を特徴づけてきた『例外主義』的な観念に囚われず、新たなアイデンティティや世界との関わり方を模索する世代だからだ」と述べている。「例外主義」とは、アメリカこそ比類のないパワーで諸国家を導く存在だとみなす観念のことである。

## Z世代が見る米国の政治・社会

しかし、この観念に変化が起きており、Z世代にとって「豊かで強いアメリカ」は過去のものになりつつある。

2020年の世論調査で、アメリカ人であることを非常に誇りに思う」と回答したZ世代は、他の世代より突出して低く、わずか20%

しかし、Z世代は絶望してはいない。アメリカが抱える問題や過去に行ってきた不正義を見据える強さを持っている。声をあげ、行動を起こして新しいアメリカを求めている。Z世代がアメリカ社会の中心になっていくとき、どのようなアメリカが生まれるだろうか。

著者は、「Z世代のアメリカ」に向けて、どのように協働していけるかを展望するために、米中対立、反リベラリズムから人道の普遍化、ジェンダー平等、中絶の権利まで、アメリカの現在と未来を描き出している。

私は本書を読みながら、日本のZ世代は？とつい考えてしまった。日本財団による「18歳の意識調査」（2022年第46回）では、「政治や選挙、社会問題について関心がある」「21・5%」をはじめ、ほぼすべての項目で日本の若者は他国若者より意識が低いということが明らかにしている。日本の現在と未来を考え、日本のZ世代との協働を追求する

ためにも本書を活用したい。（伊藤光隆）

※本稿は、『新社会政策委員会ニュース』第95号（2024年3月）から発行者の了解を得て転載させていただいたものです。編集者としては「禁手」のようなものだと恥じている。「転載」で申し訳ありませんが、兵庫のなかでもこの本をテキストに若い仲間を交えた学習会をしているところがあるので、そんな学習会がもっと増えればどの編集者の勝手な思いも込めて、敢えて掲載させていただいた次第です。

【編集部】

『戦雲（いくさぶむ）明石』上映会  
◎10月6日（日）◎10時◎13時◎18時  
◎10月11日（金）◎18時◎19時◎20時  
◎10月11日（日）◎10時◎13時◎18時◎19時◎20時  
◎10月11日（日）◎10時◎13時◎18時◎19時◎20時

## 本棚

## 威風堂々

## 奨学金って言い方やめてもらっていいですか？

監督のなるせゆうせい  
は、「奨学金」を天使の皮を被った悪魔の制度であると

くに貸与型は高等教育を受けた若者の未来を奪いかねない。

やりたいことも、夢もなかった高校3年の唯野空（ソラ）（池田朱那）は、将来の保険として大学進学を選んだ。

大学生や専門学校生の約半数が利用している奨学金は、多くの学生が卒業後の返済に苦しむ。

国立大学の受験に挑戦するも、敢え無く失敗し、私立大学に通うことになる。しかし、家庭の経済状況から奨学金を借りることを決断する。その後、親との確執もあり、実家での居心地の悪さを感じたソラは、家を飛び出した。ソラは、家を飛び出した。ソラは、家を飛び出した。



始める。ところがタクトはソラに寄生するばかりで、定職に就くことなく、生活は悪化の一途をたどる。

（簡秀吉）と同棲生活を

ある企業の面接に遭ったところから面接の担当者なんと「パパ」本人だったのだ。敢え無く通知は「不採用」。

悪いことは連なるもので、母親が悪性の腫瘍に侵され余命宣告を受ける。一方、レイの彼女・聡太（田淵累生）は、奨学金制度の改善を求めている。政治家を訪ね、意見を伝える。それは税を広く徴収するもので、国民への負担増でしかなく、た。政治家に失望した彼女は、若者に呼びかけ、「奨学金チャラ、増税反対」のデモを敢行し、プラカード、ノボリを押し立て、道行く人々に訴えた。

やがてソラの母親も死

就活もダメ、タメ彼氏のタクトも新たな女性と生活を始めており、行き場のないソラは絶望的な気持ちを引きずり、自殺を図る。寸前のところで、親がソラの生活が困ることに引き留められる。母親がソラの生活を助けるため、残っていたことを兄から知らされ、これまでの人生をリセットし、威風堂々の行進曲を背景にする。行動にどりかかる。

あとは、映画で。

大内裕和、藤田孝典、反貧困ネットワーク埼玉の協力、さらにはクラウドファンディングの資金援助で劇場公開に。

（大坪）

監督なるせゆうせい  
/2024年/日本ノ

## シネマランド

## 現代の日本の若者の現状を浮き彫りに